

03

BACE / スマートユース

2019年、社会課題解決のためSocial DXのコンセプトに基づき検討を始め、2020年にEV電池の循環市場創出をすべくBACEコンソーシアムを立ち上げた。

まずはEV普及やEV電池の2次利用で先行事例の多い中国での実証や、様々な調査検討を重ね、日本国内でのサービス事業構想を打ち出し、実現に向けて必要な機能の実装化・事業モデル検討に取り組んできた。その上で、2023年からは、EV電池のサーキュラーエコノミー実現のために利用者起点での取り組みである「スマートユース」が必要であることをフォーラム等で周知し、2024年10月、産官学連携の共創の場として「EV電池スマートユース協議会」を設立した。協議会と並行して、BACE事業体も今年度中には立上げを検討中である。

EV電池の潜在価値を活用するための
利用者起点の仕組みを作り、
社会の新しい形への構造転換を目指す

政策構想・普及のための「EV 電池スマートユース協議会」設立

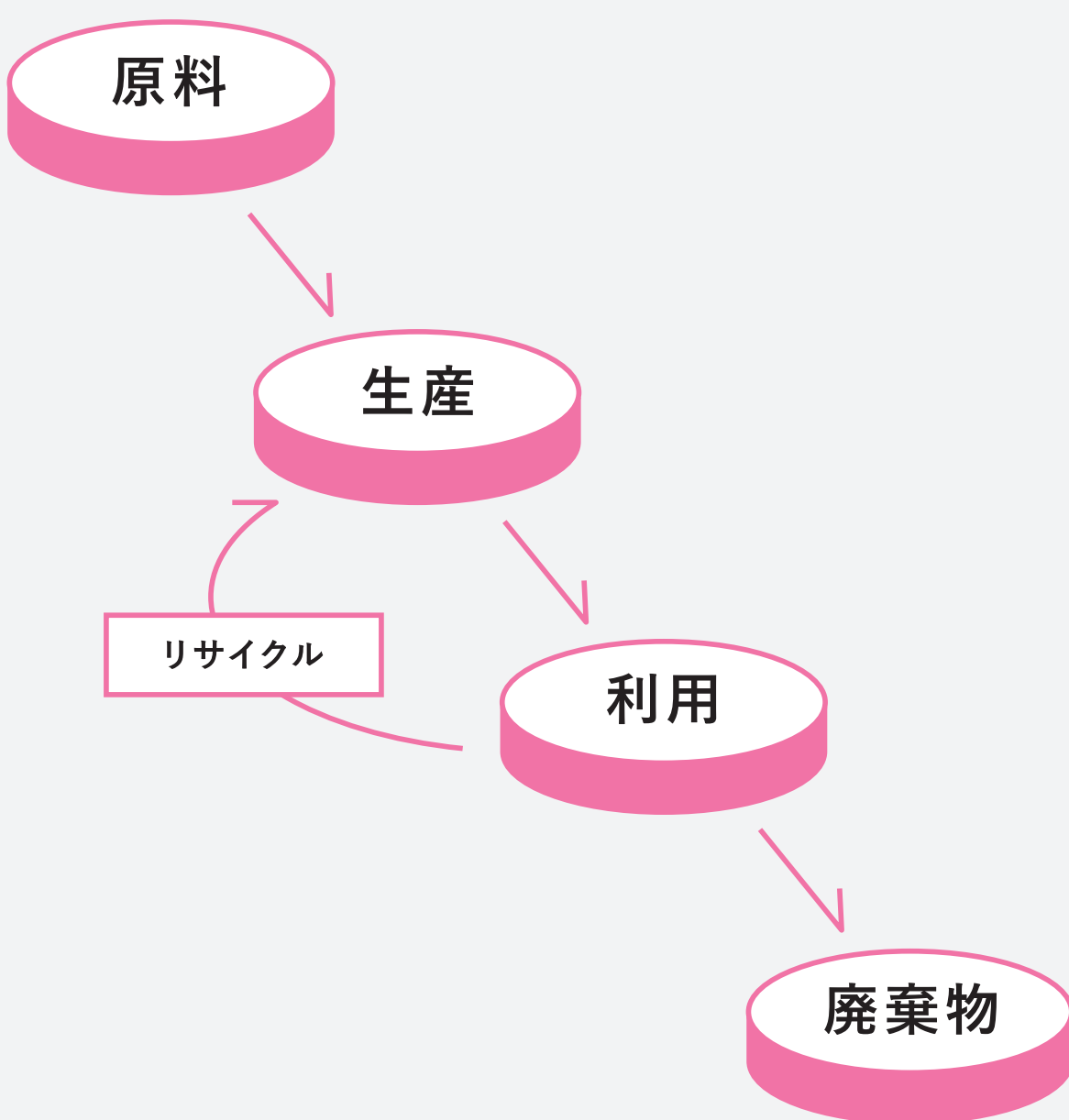


3R⇒CE(サーキュラーエコノミー)への変革の必要性を謳い、生産者側だけでなく利用者側が主体的に働きかけて有益な資源を守り、活用し、廃棄物をなくす、EV電池のサーキュラーエコノミーの実現のため、産官学連携での協議会を組成。

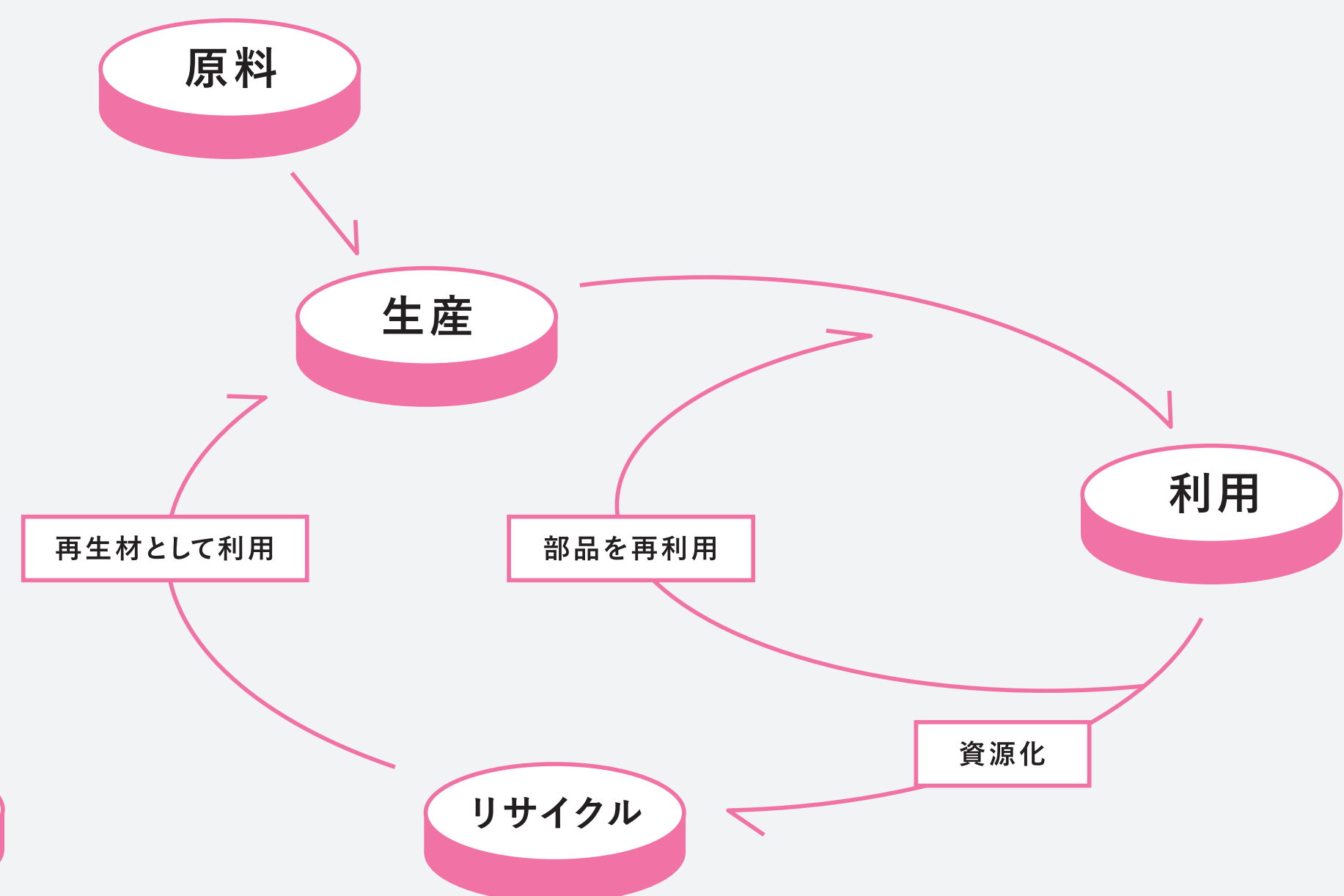
今、大量生産大量廃棄からの脱却の転換点！

●3RとCE(サーキュラーエコノミー)の違い

3E 資源を有効活用



CE 資源と製品の利用を最大化



●協議会の取り組み内容

①規格標準化	②評価指標	③CO2削減
利用者がEV・リユース電池等を利用する際の各種管理基準策定 診断等の技術利用の標準化方針策定 等	利用者が中古 EV・リユース電池等利用時のインセンティブ等の尺度となる循環貢献指標の枠組策定 等	需要側の上流から下流までに発生する CO2削減効果のクレジット化推進をクレジットの中立的蓄積管理 等
現状調査・整理	現状調査・整理	クレジット手法策定
基準・標準案策定	指標案策定・評価	方法論の評価確保
政策提言・活用	活用・普及促進	管理運用・PF化

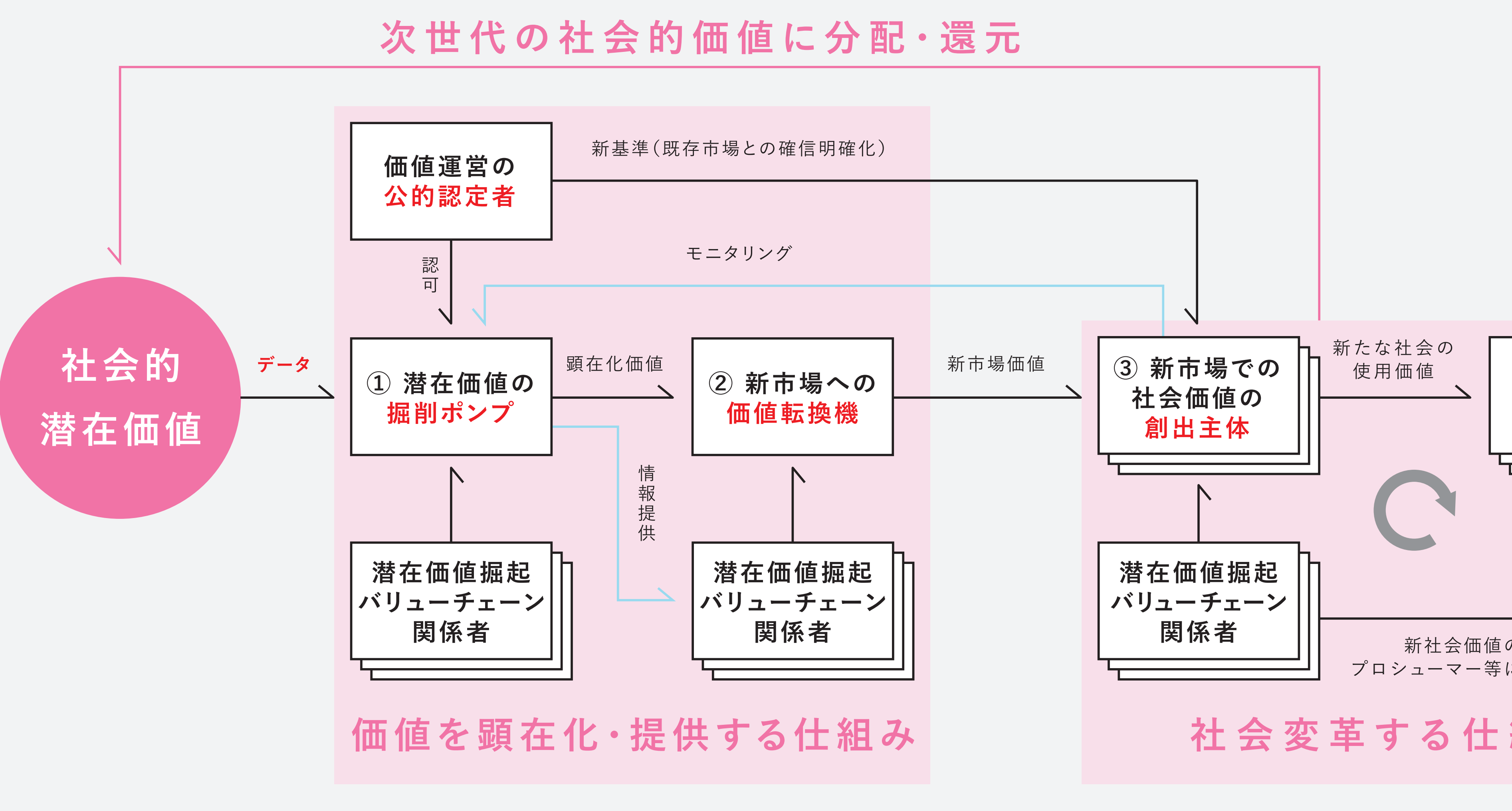
BACE の歩み



社会課題への Social DX アプローチ

～新価値が創出されてこそ社会課題を解決する力は生み出せる～

- 現在の課題
温暖化・資源危機・人権問題
- EV電池分野で急務
世界動向に対して日本の遅れ
- 3RはCEに移行すべき
- 産業構造の転換の必要



●各利用段階におけるスマートユース

①新車EV
利用段階

②中古EV
利用段階

③リユース電池
利用段階

④再生材料
利用段階

スマートユース

スマートユース
サービス

DX
サービス

④社会実装

ユーザーニーズと技術・サービスマッチングした個別プロジェクト推進

モデルプロジェクトの全国展開・普及促進

ニーズ・技術抽出

プロジェクト化

モデルの普及促進

- ・国内市場規模推計
- ・ビジネスモデル検討

- ・中国で中古EV計測実証実施
- ・中古EV電池による蓄電システムの実証
- ・国内EV向け診断サービス検討
- ・リユース向け検討

- ・フォーラム開催
- ・協議会組成準備
- ・EV電池市場推計レポート

BACE
サービス
事業構想

フォーラム
開催

協議会
設立

社会課題 BACE サービス事業
プラットフォームを構想



GBNet 福岡 /
連携

自治体のトップランナー
と連携して施策の具体化
検討

BACE
事業化へ

スマートユースの社会実
装をけん引するBACEプ
ラットフォームサービス
で事業を立上げ準備